

〔第3種郵便物認可〕

ごみ問題を話し合う兼広教授(左)と
参加者たち



川ごみ問題を討議

私たちができること

MAINICHI MEDIA CAFE

「サイエンスカフェ」川ごみ問題について、私たちができることを考える「ようく」が17日、千代田区二ツ橋1の毎日新聞社1階「毎日メディアカフェ」で開かれた。

「サイエンスカフェ」川ごみ問題について、私たちができることを考える「ようく」が17日、千代田区二ツ橋1の毎日新聞社1階「毎日メディアカフェ」で開かれた。

荒川流域でごみ調査、清掃活動に取り組む特定NPO法人「荒川クリーンエイド・フォーラム」(事務局・江戸川区)が企画。海洋汚染問題に詳しい兼広春之・大妻女子大教授が川や海のごみ問題について話題提供。「プラスチックが粉々になったマイクロプラスチックは汚染物質が付着しやすく、生物への影響が世界で懸念されている。海ごみの多くは生活から出た

ごみが河川から流入したもので、漂着前の回収が必要だ」と指摘した。続いて、参加者がごみの発生抑制策を話し合い、「ごみ分別を徹底させる」「マ

イボトルやマイバッグを持ち歩き、ペットボトルやレジ袋の消費量を減らす」といった意見が出された。

【斗ヶ沢秀俊】